

山口市新本庁舎の建設等に関する調査特別委員会第8回中間報告書

山口市新本庁舎の建設等に関する調査特別委員会といたしまして、前回中間報告以降の調査、検討における概要につきまして、山口市議会会議規則第45条第2項の規定により報告をいたします。

執行部におかれましては、長期にわたる新型コロナウイルスの感染拡大といった困難な状況の中、新たな本庁舎の姿を詳細かつ具体的に描く基本設計作業を鋭意進めてこられ、このたび最終案が取りまとめられたところです。

令和3年11月19日開催の第21回山口市新本庁舎の建設等に関する調査特別委員会においては、基本設計の最終案として、これまで基本設計の中間報告として示されたものを整理した内容に加え、新たに意匠計画や概算事業費などが明らかにされるとともに、本特別委員会に先立ち開催されました第9回山口市新本庁舎整備専門会議における各委員からの意見、さらには今後の予定についての報告がなされたところです。

この最終案においては、「白い鐘塔に佇む、ひと・まち・未来にやさしい市民の丘」を基本理念とした上で、亀山の麓に建つ新しい市役所があらゆる人々の生活のよりどころとなる「市民の丘」とする旨の設計コンセプトが示されました。また、意匠計画では、山口サビエル記念聖堂の白い鐘塔との調和や、国宝瑠璃光寺五重塔の屋根の重なりを想起させる外観とした歴史との調和に加え、景観や環境との調和を外観コンセプトとすることや、100年先まで長く使い続ける庁舎とすることが示されたところです。こうした中で、このたび新たに示された概算事業費については、総額が約188億9,150万円とされており、令和元年6月の山口市新本庁舎整備基本計画の策定時と比較して、約41億円の増加となっていることが明らかになりました。

その後の協議においては、基本計画時から約41億円の増加となった概算事業費に係る内容が中心となり、職員1人当たりの床面積に関する考え方や市民交流機能に係る面積増加の考え方などについて、基本計画時との相違についての質疑が行われるとともに、建設物価の上昇等に伴う概算事業費の増加に関しては、昨今の資源等の価格高騰を踏まえた上で今後の見通しをただすなど、さらなる事業費増加への懸念に関する意見が出されました。

このほか、新型コロナウイルス感染症の収束を見据えて民間需要が増加することなどによる工期の延伸に対する懸念や、工事期間中の来庁者の駐車場利用についての考え

方などについても質疑を行いました。

こうした中、執行部からは、概算事業費が基本計画時に比して大幅に増加した理由と、1平方メートル当たりの建設単価は近隣他市の事例と比較しても同等であると説明された上で、今後の実施設計において施設機能を確保しながらより安価な整備方法についての検証を行っていく旨の方針が示されたところです。

このたびの基本設計の最終案については、現在、パブリックコメントを実施されているところであり、市民の皆様からの御意見等も踏まえた実施設計作業を鋭意進めていかれるとのことでもあります。こうした中において、新本庁舎建設には多くの市民の皆様の御理解を得る必要がありますことから、建設コストの縮減に向けた努力を一層進めていただくとともに、令和6年度の新本庁舎棟の竣工、また、令和8年度の市民交流棟や新立体駐車場などの竣工を遅れることなく進めていかれることを求めるものであります。

執行部におかれましては、山口市の将来を見据え、多くの市民の皆様に愛される新本庁舎建設につながりますよう、事業費の抑制の視点も含めて、さらに精査、検討を行われることを要望いたしますとともに、本特別委員会といたしましても議論を重ね、引き続き意見を申し述べていきたいと考えております。

以上、山口市新本庁舎の建設等に関する調査特別委員会の第8回中間報告といたします。

令和3年12月20日

山口市新本庁舎の建設等に関する調査特別委員長 野村 幹 男